

日 時 令和4年10月4日(火)

児 童 23名

指導者 藤原 充利

1 単元名 「葛巻町の未来を考えよう」 第2小単元「町づくりって何だろう」

2 単元の指導構想

(1) 教材(題材)について

葛巻町は、「ワインとクリーンエネルギーの町」として、自然を生かしながら、町づくりを進めている。日本の課題でもある人口減少や少子高齢化に直面している葛巻町は、「持続可能な地域社会のために、『食料・環境・エネルギー』などの地球規模の課題に対しても大きく貢献する『山村のモデルとなるまちづくり』を進め、町の未来を担う子どもたちに『夢』と『誇り』を持ち『住み続けたい』と思えるまちづくり」を目指している。

子どもたちが本単元を学習することにより、探究的な見方・考え方を働かせながら、葛巻町の魅力や課題の本質を捉えようと主体的・対話的に学習を進め、人との出会いによって葛巻町に対する見方や考え方の幅を広げたり、葛巻町と自分との関わりや自己の成長について考えたりすることで、深い学びにつながっていくものとする。

本単元では、子どもたちのこれまでの経験や体験を通して感じる町の魅力を想起させたり、町の様子や調べたことから課題に気付いたりして、「葛巻町の未来を考えよう」という単元の課題を設定していきたい。また地域社会で、町づくりを目指している人たちと出会い、それぞれの思いや考えを聞き、「自分たちにもできることはないか」という思いを醸成していきたい。そして、「12歳の提案書」として、自分たちにできることに実際に取り組み、今の自分たちでも、「本当に地域社会のためにできることがあるんだ」という実感を味わわせたい。

(2) 児童について

本学級の子どもたちは、これまでの社会科や総合的な学習の時間などの学習を通して、身近な事象に疑問をもち、質問したり、自分たちで調べたりしながら解決を図る学習経験を積んできている。そのため、課題について、自分で調べ、解決したりできる子どもたちである。しかし、自ら課題を見つけたり、調べたことを基に自分の考えを主張することや、自分と友達の考えをつなげて考えたり、様々な事象を比較したり、関連付けたりして、共通点や相違点を見つける力、また、納得解や自分なりの最適解を決める力は十分とは言えない。

(3) 指導にあたって

研究仮説1に関わって

- ①子どもたちの生活経験と葛巻町の課題を関連付けるように問うことで、「12歳の提案書」を作成する切実感をもつことができるようにする。

- ②子どもたちの思いや願いを取り上げることで、より自分事として問題や課題を捉えて取り組むことができるようにする。

研究仮説2に関わって

- ①思考ツールを用いて、自分が集めた情報や考えと、実際に聞き取った若者や地域で働く人たちの思いを比較・分類することで、提案書に足りない部分に気づき、自分たちが考えた取組に生かすことができるようにする。
- ②他教科とのつながりを意識するように発問を工夫することで、社会科「わたしたちの暮らしを支える政治」で活用した住民の思いや役所の役割、費用等の社会的事象の見方・考え方を働かせることができるようにする。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

葛巻町の関係人口を増やすための「12歳の提案書」を作る活動を通して、葛巻町で行われている町づくりの取組みや、その人々の思いに気づき、様々な視点から町づくりの在り方について考えるとともに、地域のために自分ができることに進んで関わっていくことができるようにする。

(2) 単元の評価規準（第2小単元）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 人口減少やそれを解決する取組や、それに取り組んでいる人々の思いを理解している。</p> <p>イ アンケート調査を相手や場面に応じた適切さで実施している。</p> <p>ウ 町づくりに対する思いの変容は、町づくりの取組をする人々の思いを探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。</p>	<p>エ 町の魅力と課題について、自分で調べたことや、葛巻町を活性化しようとしている人々の思いや願いを踏まえて課題を設定し、解決の方法や手順を考え、見通しをもっている。</p> <p>オ 課題の解決に必要な情報を、目的に応じて手段を選択して収集したり、情報の種類に応じて適切に蓄積したりしている。</p> <p>カ 活気ある町づくりをするために、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を関連付けたり比較したりして、確かな理由や根拠をもつことができている。</p> <p>キ 自分が考える町づくりについて、調べた情報や写真などを使って効果的に表し、「12歳の提案書」に分かりやすくまとめている。</p>	<p>ク 地域社会の人々の交流において、自分とは異なる考えや価値観を受け入れ、尊重するとともに、自分との共通点や相違点を見出そうとしている。</p> <p>ケ 「12歳の提案書」として町のために活動することを通して、自他の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>コ 「12歳の提案書」をつくり、実行する活動を通して、町の課題を自分ごととして捉え、自分ができることに積極的に取り組もうとしている。</p>

(3) 指導と評価の計画 【A…課題設定 B…情報収集 C…整理・分析 D…表現・まとめ】

小 単 元	過 程	評価規準 (<u>評価の観点</u> ・評価の方法)
<p>第1小単元（24時間）</p> <p>葛巻町の課題である人口減少の改善に向けて、自分たちなりの改善案を考えることで、葛巻町によりよい未来について考察しながら、「12歳の提案書」を作成し、学級で発表会を行う。</p>		
<p>第2小単元（30時間）</p>	<p>A</p> <p>○1学期に調査したことを振り返る。 ○何のために取組を行っているのか再確認する。 ◆子どもの生活経験と葛巻町の課題を関連付ける。</p> <p style="text-align: center;">仮説1①に関わる手立て</p> <p>◆子どもの思いや願いから、学習課題を設定する。</p> <p style="text-align: center;">仮説1②に関わる手立て</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">町づくりってなんだろう。</div> <p>○今後の活動方針を話し合う。 ◆ステップチャートを用いて、活動計画を立てる。</p> <p style="text-align: center;">仮説2①に関わる手立て</p>	<p>エ 町の魅力と課題について、自分で調べたことや、葛巻町を活性化しようとしている人々の思いや願いを踏まえて課題を設定し、解決の方法や手順を考え、見直しをもっている。 (ワークシート)</p>
	<p>B</p> <p>○地域で働く人々や若者にインタビューする。 ◆ベン図を用いて、多くの人々の思いや願いの共通点を見付ける。</p> <p style="text-align: center;">仮説2①に関わる手立て</p>	<p>イ アンケート調査を相手や場面に応じた適切さで実施している。 (活動の様子)</p>
	<p>C</p> <p>○今まで調べた情報や、インタビューで得た話などを出し合い、分類する。 ◆KJ法を用いて、情報を視覚化し、分類する。</p> <p style="text-align: center;">仮説2①に関わる手立て</p> <p>「葛巻の知名度を上げたい」 「サイトを作り発信している」 「成人後町外に出る人が多い」等</p>	<p>ク 地域社会の人々の交流において、自分とは異なる考えや価値観を受け入れ、尊重するとともに、自分との共通点や相違点を見出そうとしている。 (発言・ワークシート)</p>
	<p>C</p> <p>○前時に分類した情報を、分析しながら提案書に必要な改善案や、今後の活動に必要なことを確かめる。(本時)</p>	<p>カ 活気ある町づくりをするために、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を関連づけたり比較したりしながら解決に向けて取り組んでいる。 (発言・ワークシート)</p>

	<p>○修学旅行先で「町づくり」について調べる。</p> <p>◆他市町村の町づくりに携わる人々の思いをもとに、自分たちの考えに足りない部分はないかを問う。</p> <p style="text-align: center;">仮説 1①に関わる手立て</p>	<p>オ 課題の解決に必要な情報を、目的に応じて手段を選択して収集したり、情報の種類に応じて適切に蓄積したりしている。</p> <p style="text-align: right;">(活動の様子・ワークシート)</p>
	<p>○集めた情報を整理して、12歳の提案書を作成する。</p>	<p>ア 人口減少やそれを解決する取組みや、それに取り組んでいる人々の思いを理解している。</p> <p style="text-align: right;">(発言・ワークシート)</p> <p>キ 自分が考える町づくりについて、調べた情報や写真などを使って効果的に表し、「12歳の提案書」に分かりやすくまとめている。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート)</p> <p>ケ 「12歳の提案書」として町のために活動することを通して、自他の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">(話合いの様子・ワークシート)</p>
	<p>○12歳の提案書を提案する。</p>	<p>ウ 町づくりに対する思いの変容は、町づくりの取組みをする人々の思いを探求的に学んだことによる成果であることに気付いている。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート)</p> <p>コ 「12歳の提案書」をつくり、実行する活動を通して、町の課題を自分ごととして捉え、自分ができること積極的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">(発言・ワークシート)</p>
<p>第3小単元（15時間）</p> <p>自分たちにできることを「12歳の提案書」としてまとめ、町の議会で提言したり、実行したりする。これまでの取組の意義を考え、活動を振り返りながら、これからの自己の生き方について考えることができる。</p>		

4 本時の指導計画

(1) 目標

集めた情報を分析する活動を通して、自分たちが考えた「12歳の提案書」の内容と、地域の人々の声を関連付けながら、より具体的な提案に向けて改善案や今後の見通しを説明することができる。

思考力・判断力・表現力等

(2) 評価規準

集めた情報を分析する活動を通して、自分たちが考えた「12歳の提案書」の内容と、地域の人々の思いを関連付けながら、より具体的な提案に向けて改善案や今後の見通しを説明している。

思考・判断・表現

(3) 展開

段階	学習内容と学習活動	□指導上の留意点 ◆研究に関わる手立て ◎評価	資料等
導入 5分	<p>1. 学習の見通しをもつ。</p> <p>自分たちの提案書を見直そう。</p>	<p>◆ 発表会で出た課題を振り返り、提案書を作成する上で、地域の人たちの思いの必要性に気付くことができるようにする。仮説1①に関わる手立て</p>	ワークシート
展開 35分	<p>2. グループで、自分たちの案と、分類した情報を比較・関連付けながら話し合う。</p> <p>○インタビューで集めた情報から地域の人たちの思いに気づき、それが自分たちの提案書の改善につながることに。</p> <p>3. 全体で改善案や見通しを交流する。</p> <p>○他グループの発表を自分たちの提案書の改善につなげることに。</p>	<p>◆ KJ法を用いて交流することで、自分たちの案と、分類した情報との共通点や相違点を見付けることができるようにする。</p> <p>仮説2①に関わる手立て</p> <p>□ グループ内で分析することで、町づくりに必要な要素に共通点や相違点があることに気付くことができるようにする。</p> <p>◎ 情報を比較・関連付けをする中で、より具体的な提案に向けて改善案や今後の見通しを説明している。</p>	ワークシート
まとめ 5分	<p>4. 他グループの発表を聞いて、今後の方針を決める。</p> <p>5. ふりかえりをする。</p>	<p>◆ 本時の話し合いをまとめたことをもとに、今後の活動をどのように進めたらよいかを問い、課題解決に必要な活動を考えられるようにする。</p> <p>仮説1②に関わる手立て</p> <p>□ 今後の活動で大切にしたいことはどのようなことか考えるように促すことで、葛巻町の住人や町づくりに携わる人々の思いの大切さに気付くことができるようにする。</p>	ワークシート